

令和 7 年度第 1 回 TOKYO Data Highway 戰略推進協議会
OpenRoaming 対応 Wi-Fi 分科会 議事要旨

1 日時

令和 7 年 6 月 3 日(火) 15:30~17:00

令和 7 年 6 月 13 日(金) 14:00~15:00

2 場所

WEB 会議システム

3 出席者（敬称略）

（1）令和 7 年 6 月 3 日(火)

ア 通信事業者

エヌ・ティ・ティ・ブロードバンドプラットフォーム株式会社

東日本電信電話株式会社

イ 関連団体

一般社団法人無線認証連携協会

一般社団法人無線 LAN ビジネス推進連絡会

ウ 製品メーカー

シスコシステムズ合同会社

エ 東京都

デジタルサービス局

（2）令和 7 年 6 月 13 日(金)

ア 通信事業者

株式会社ワイヤ・アンド・ワイアレス

イ 東京都

デジタルサービス局

4 議事

（1）開会

（2）今年度の会議運営について

（3）OpenRoaming 対応 Wi-Fi 分科会の検討内容

（4）意見交換

（5）閉会

5 議事概要

東京都から議事（2）本年度の会議運営、議事（3）OpenRoaming 対応 Wi-Fi 分科会の検討内容について説明。その後、各事業者と議事（4）意見交換を行った。

（1）開会

東京都から開会の挨拶後、議事次第の説明及び出席者の紹介を実施

（2）本年度の会議運営について

- 第1回目である本分科会はOpenRoaming 対応 Wi-Fi の整備に対する意見交換を行う。
- 8月から9月頃に第2回分科会を実施予定であり、つながる東京展開方針の今後の進め方などに関する議論を予定している。

（3）OpenRoaming 対応 Wi-Fi 分科会の検討内容

- これまでの取組に加え、目的、対象、具体的な施策を広げることで、より多くの都民、来訪者の方が利用できるよう、災害・インバウンド対応に加え、デバイド解消や混雑対策に向け、民間施設の Wi-Fi 整備や普及啓発などの支援を検討している。
- 新しい目的としては、1つ目がデバイド解消である。経済的な影響により、通信環境へのアクセスに格差が生じており、その解消に向けた取組を検討している。
- 2つ目は混雑対策である。人が多く集まるイベント会場、駅、空港などの電波がつながりにくい状況において、4G・5G のオフロード手段として OpenRoaming の整備支援に取り組んでいく。

（4）意見交換

＜病院への整備：質問①>都内の病院への整備先について

【A 社】

- 災害観点、誰一人残さないという観点は非常に良い。

【C 社】

- 候補としては非常に妥当である。
- 小規模かつ利用者数の多い医療機関、主要な救急医療機関や救急外来を持つ病院、高齢者や障碍者向けの医療施設も有効な候補である。

【D 社】

- 整備先の考え方には問題なく、良い取組だと考える。

<病院への整備：質問②>医療機関への OpenRoaming 対応 Wi-Fi を整備するにあたり、懸念や注意すべき点について

【A 社】

- 懸念事項は電波干渉、ネットワーク設計のコスト、Wi-Fi 利用者のサポートの 3 点である。過去、電波干渉が議論されていたが、昨今ではその懸念が払拭されてきている。

【C 社】

- 医療機器は特定の無線周波数帯域を使用している場合があり、Wi-Fi 干渉を引き起こす可能性があるため、周波数管理と設計段階での事前調整が必要となる。
- 適切な認証と暗号化を実施の上、ネットワーク分離を行う必要がある。
- ハードウェアの導入コストに加え、運用・保守費用も考慮する必要がある。

<公共交通機関への整備：質問①>駅・空港における公衆 Wi-Fi サービスにおける利用ニーズや整備・運用上の課題について

【A 社】

- コロナやインバウンドで、提供範囲の見直しが進んでいる。駅や店舗での QR コード決済や入出国のアプリ管理など、新たな利用法において Wi-Fi のニーズは増えており、コストの影響が大きい。

【C 社】

- 設置場所の選定や品質管理、利用促進などの課題を適切に解決する必要がある。利用者が多く集まる場所への適切な設置が必要である。
- 屋外アクセスポイントの使用など、利用者が多い場所でも安定した通信品質の維持が重要である。

- 周知率や利用率向上のため、ステッカーに加えてポスターやデジタルサイネージなど多角的な周知の検討が必要である。

【一般社団法人無線認証連携協会】

- 様々な自治体等によって改札だけ、スポットだけのサイトも多く、その場所がユーザーのニーズにあっていはるかはヒアリングが必要である。

<公共交通機関への整備：質問②>駅・空港への整備促進に向けた可搬型Wi-Fiの貸出によるトライアル機会の提供に対する意見

【A社】

- 可搬型 Wi-Fi のトライアルは、OpenRoaming の使い方をご存知でない方に認知いただくために重要だと考える。

【C社】

- 可搬型 Wi-Fi の貸し出しや整備費の補助は、利用者の体験向上や災害時の情報伝達力が高められる有効な施策だと考える。
- インバウンド含む観光客に対して、短期間で高品質な通信環境を提供でき、安心感や満足度向上につながり、災害時は情報伝達や安否確認、救援活動の円滑化に寄与できる。
- コスト面から考えると、コスト負担が大きい中小規模施設への導入促進に有効である。一方で、優先順位や条件を明確にし、効率的な配分を行うのが課題である。

【一般社団法人無線認証連携協会】

- 近傍にある OpenRoaming の既存設備と干渉しないよう調整が必要である。協会では設置場所の提出を義務付けており、問題が発生した場合は設置事業者間の調整を行っている。一時的なものでもマップの提出をお願いしているため、そのあたりも配慮いただきたい。

<災害時一時滞在施設への整備：質問①>「災害時における帰宅困難者支援に関する協定」を締結している企業や「災害時帰宅支援ステーション」の中で、Wi-Fi 整備が効果的と考えられる場所に対する意見

【B社】

- 平時でも来訪頻度が多い場所や、滞在時間が長い場所から整備すべきである。Wi-Fi 利用が見込めるため、より企業から理解を得られやすい

と考える。

【C社】

- 帰宅困難者が集中しやすく、情報伝達や支援活動の拠点となる場所が効果的と考える。特に、ショッピングモールやコンビニなどの商業施設、オフィスビルは一時的避難や待機場所として利用されるため、通信環境を整備すれば情報提供や支援サービスの利用促進の支援が提供できる。

【一般社団法人無線 LAN ビジネス推進連絡会】

- 主要駅の周辺や主要幹線道路の周辺はネット環境が必要なため、意識すると良い。
- 災害時にアクセスが集中する場所では、中継回線が大きなポイントであり、企業の取組を踏まえて支援していただくと良い。

<災害時一時滞在施設への整備：質問②> ホテル・大学・コンビニにおける、オープントーミング対応 Wi-Fi 導入の障壁や運用上の課題について

【B社】

- 災害時には、OpenRoaming プロファイルを持っていないユーザーへも Wi-Fi を開放することが望ましいため、00000JAPAN などの無料開放 Wi-Fi と併用することも検討いただきたい。

【C社】

- 保守運用の課題や、利用者への周知促進策が重要になる。

【一般社団法人無線 LAN ビジネス推進連絡会】

- 提供事業者にとっては平時の利用があるため、付加価値や集客に対するメリットを併せて整備すると良いと考える。

<災害時一時滞在施設への整備：質問③> 民間企業における OpenRoaming 設置のご協力に向けた取組

【一般社団法人無線 LAN ビジネス推進連絡会】

- 各企業は自社の宣伝も兼ねて Free Wi-Fi を提供しており、都との連携により付加価値がつくのであれば、協力していただけると考える。災害時前に OpenRoaming を登録いただける流れを作ると良い。

＜インターネット接続が困難な方向けの利用施設への整備：質問①＞福祉施設や就労支援施設への支援について

【C社】

- 福祉施設や就労支援施設での OpenRoaming 対応 Wi-Fi 整備は、「誰でもつながる」環境を実現し、情報格差やデジタルデバイドの解消に大きく寄与する。
- 実現するためには、アクセシビリティ向上やセキュリティ・プライバシー保護、可搬型アクセスポイントの活用が重要となる。

【一般社団法人無線認証連携協会】

- 施設の大小により設備の規模感が変わるため、広い事業者が参入できると望ましい。OpenRoaming はセキュアであることが本質であるため、タッピング対策は遵守いただきたい。

＜インターネット接続が困難な方向けの利用施設への整備：質問②＞誰一人としてインターネット接続から取り残さないという趣旨で、CSR活動等国内外の事例について

【C社】

- 沖縄セルラーが創立 30 周年の際に、CSR 活動の一環として沖縄セルラーと共同で沖縄県内にある 12 の単身学生寮などに Wi-Fi 環境を無償で設置した。対象の施設の通信量も無料で提供している。

【D社】

- テクノロジーコミュニティで OpenRoaming を積極的に取り入れるなど、テクノロジーのナレッジがある方に広めている。
- 本島と離島の教育格差をなくすため、無線がない状況で弊社の無線とデバイスを提供した実績がある。
- ネットワーキングアカデミーを開設し、海外で就労支援の一環として CSR 活動を行っている。また、NGO を支援するプログラムの実施、海外ではインターネットがない地域にインターネットやタブレット、コンテンツを提供している。デバイド支援している NPO を支援するプログラムは効果的だと考える。

【一般社団法人無線認証連携協会】

- ニューヨークでは民間含め様々な Wi-Fi の取組をしている。LinkNYC

の事例は、市の光ファイバーアセット開放が効果的になされた事例である。「Wi-Fi を用意する」を目的とならないよう、デバイド対策として必要なプログラムやどの既存アセットが使えるかという観点から検討すると良い。

＜混雑イベントへの対応：質問①>大規模イベント等における通信トラフィックのオフロード手段として Wi-Fi の活用した事例、都の取組として期待すること

【B 社】

- 大規模イベント開催時に独自に Wi-Fi を用いたネットワークを構築する場合は、既設 Wi-Fi との干渉や棲み分けなどが留意点である。電波干渉を考慮しながらネットワークのチューニングができる機器選定などが必要である。
- OpenRoaming の接続に関する PR などの支援を東京都に実施いただけすると、Wi-Fi 設置業者側・イベント主催者側ともに助かると考える。

【C 社】

- KDDI と共同で JAPAN JAM 2023 のグッズ販売・飲食店エリアにフリー Wi-Fi 環境を提供した。期間中は担当者が現地に常駐し、機器故障対応や臨機応変のアクセスポイントの再配置を実施した。
- 東京都が主催、もしくは後援するイベントは「TOKYO FREE Wi-Fi」や「東京アブリ」の周知をすることを条件とした費用面での支援を期待する。

【D 社】

- 混雑緩和のために Wi-Fi を使い分けているパターンが多い。
- トライフィック過多で Wi-Fi が繋がらない事象が起きており、会場設計時には、セルの大きさの調整など試行錯誤している。
- 人が集まる場所であれば、整備すれば利用される傾向にある。OpenRoaming は一度利用すれば技術を意識せず利用できるため、宣伝と実際の整備をすれば、有効に働くと考える。

（5）閉会

東京都から閉会の挨拶後、今後の進め方や事務連絡等を案内